

あとがき

吉野川の話題が出るたびに、吉野川を考える基本史料として、その存在が指摘されている「吉野川筋用水存寄申上書」「芳川水利論」「疏鑿迂言」などの内容を紹介し、現代語訳する作業は、本研究会の早くからの願いであった。今回、他の類書を合わせて現代語訳することができた。資料の提供など快く同意していただいた方々をはじめ、多くの皆さんのご協力によるものである。

現代語訳に当たって、現代生活とすでに遠くなった江戸時代の農業、水利、土木工事、租税等の事項に関することであり、思いがけないとり違いをしているのではないかという不安がつきまとったが、何とか現代語化を完成することができた。

全編にわたって現代語化されるのは初めてのことであり、また「飯尾川新用水願草稿」については、今回その存在が初めて明らかになったものである。「水利に関する上言」「芳川水利論付録」は、すでに、「高川原村史」に紹介されていますが、今回、庄野家のご好意で原典に当たって照合することができた。記して謝意を表したい。

なお「芳川水利論」については「高川原村史」などに収録されているだけで原史料の存在は現在所在不明である。編集の過程で史料保存の重要性を再確認した次第である。本現代語訳が原文ともに利用していただけることを願っている。

最後に史料の提供に快く応じていただいた四国大学・鳴門教育大学の関係者の方々、後藤家の皆さんをはじめいろいろな立場で編集を支えていただいた方に心から感謝を申し上げます。

平成十一年六月一日

吉野川資料研究会

吉野川資料研究会メンバー

奥村 清 徳島文理大学教授

澤田 健吉 徳島大学名誉教授

條 半吾 県漁業史編纂室 特別嘱託

高橋 啓 鳴門教育大学教授

立石 恵嗣 徳島県立文書館主査

寺戸 恒夫 徳島文理大学非常勤講師

大和 武生 四国大学助教

横畠 康吉 四国大学教授

(五十音順)

平成11年6月1日発行

発行・編集 吉野川資料研究会
